

## 介護老人保健施設「クレイン」

～増設部分で全室個室ユニットケアを実現（ステップ2）～

- 増設する個室がリビングルームを取り囲むように配置されたユニット棟でユニットケアを行う。
- 個室は和室も設け、他の部屋も障子などで和風のイメージをつくる。壁や湿気や脱臭作用のある珪藻土塗り壁にする。
- リビングルームには、シンク及び大きめの調理台を設置し、多人数が作業できる環境をつくる。また、利用者が使用できる冷蔵庫、食器棚等もおく。さらに、畳の小上がりをつくり、リラックスできるような掘り炬燵をつくる。

既存施設ユニットケア実践報告事例

施設名称		介護老人保健施設クレイン
運営主体		医療法人社団 得心会
施設所在地		千葉県市原市石川1078
電話番号		0436-88-4500
開設年月日		平成11年 2月10日
施設 の 概 要 現 況	定員	入所 80 名 ( 通所 40 名 )
	職員数	施設長 1 ( 医師兼務 ) 医師 1.05 ( 常勤 1 非常勤 1 [ 0.05 ] ) 支援相談員 2 看護職員 9.8 ( 常勤 8 非常勤 4 [ 1.8 ] ) 介護職員 29.8 ( 常勤 28 非常勤 4 [ 1.8 ] ) 栄養士 2 理学療法士 0.2 ( 非常勤 2 [ 0.2 ] ) 作業療法士 1 調理員 委託 事務員 4
	人員配置割合	2.4 : 1
		<p>平成11年2月に開設し、本年3年6ヶ月が経過する。千葉県循環器病センターに隣接し、自然にも恵まれ良好な環境の中にある。建物は鉄骨造りの2階建てで、中庭を設け、1周90mの回廊式をとり、1階で40人2階で40人を介護している。居室は、4人部屋が15室、2人部屋が7室、個室が6室。食堂の広さは1階82㎡2階85㎡で、1・2階毎で食事をしている。1階北側レクリエーションルーム83㎡、2階南側レクリエーションルーム80㎡をそれぞれワンルームとして広くとってある。1階北側には山野草などのある庭があり、車椅子での散策が出来る。2階北側からは、谷と山並みの眺望が広がっている。1・2階の回廊は、施設内での散策、リハビリ、行事等にも有効に機能しており、中庭は癒しの時をつくっている。通所リハビリテーションデイルームは180㎡で、1日平均30名前後の利用があり、午前中は個々のリハビリが施行されている。</p>

ユニットケアの類型	ステップ2
ユニットケアへ取り 組むきっかけ	<p>痴呆の取り組みの中でユニットケアに出逢い、仙台での研修以後学習を進め、倉敷、仙台での全国研修会に参加した。</p>
現状において、ユニッ トケアを实践する上 での問題点	<p>ユニットケアの实践例を見学してからその中身が見えるようになり、ケアの一方法であることを確認し、自らの方法論をつくり上げる必要性が生まれた。特に老健に於けるユニットケアについては、現実の問題として長期利用組と家庭復帰組とを区別する中で実施することが良いのか、それ以外のやり方も出来るのかを学習し、実践に備えたい。</p>
自分たちの考えるユ ニットケア	<p>老健の仕事は利用者一人一人の要望に応えることであり、ユニットケアを絶対視することは危険である。自立を支援するためにリハビリテーションは重要性を高め、老いた人が生きる活力を高めるために精神性が欠かせない。これらのためユニットケアをどう活用するかを整理しなくてはならない。</p>

必要と考えられる人員配置	厚生労働省老健局長がユニットケアでも現状の3対1を動かさないとやっている。老健が長期入所、家庭復帰、医療管理に3類型化した場合どの型にどの人員配置が必要か難しい問題である。長期入所型がユニットケアに合っていると思えるが、人員を裏付ける根拠を持っていない。
現状の施設配置図	別紙1のとおり
改修後の施設配置図	別紙2-1、2-2のとおり
居室のイメージ及び設置する設備・備品	12の個室のうち和室を4部屋にした。他の部屋も障子などで和風イメージにしたい。明るさ、やわらかさ、落ちつきをコンセプトにして内装イメージをつくっている。壁は湿気や脱臭作用のある珪藻土の塗り壁を考えている。
リビングルームのイメージ及び設置する設備・備品	<p>一般家庭用のシンクを壁側に設え、後方1.5mのところ1800×900の調理台を設置し、いろいろな人が作業に参加できる環境をつくる。熱源は電気とし危険防止に配慮することは勿論であるが一方、冷蔵庫、食器棚も置いて可能な限り利用者が使用できるよう配慮する。</p> <p>連続するように畳の小上がりをつくり、掘りゴタツを設える。</p>
職員に対する研修	実践施設の情報を得ながら現在のスタッフで学習を重ねる。利用者は環境のみによって左右されるわけではない。日頃より実践している人間関係を大切に、利用者と家族の信頼を得ることを根本に捉え、ユニットケアでどう生かせるかを研究する。
理事長等経営者に対する意識改革	ユニットケアは介護の質の向上の為にありとされており、理事長、常務理事はその上に立って、そのことを全職員が理解し実践するよう努めている。

<p>今後のユニットケアのあり方について</p>	<p>現段階では、全老健に於いても、ユニットケアの方針、運営方法が整理されておらず、我々の知恵が早計に決められることではない。いずれにせよ、ユニットケアという一つの方法論が全体になることはあり得ないことで、それぞれの施設が真剣に取り組む中で長所短所が整理されていくものと思う。私共は12人のユニット利用者の納得を得られるやり方を追求していく。</p>
--------------------------	---

### 既存施設改装

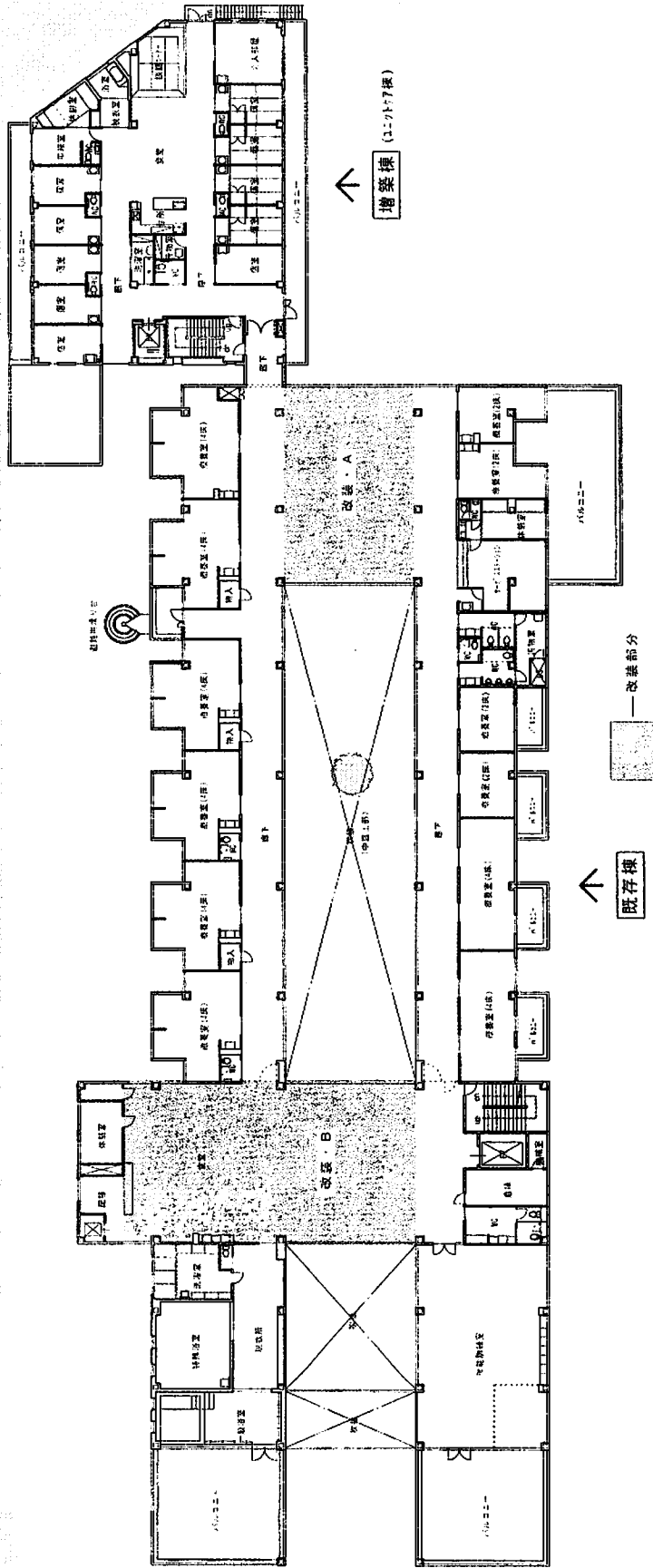
#### ユニットケア棟増築に伴う既存施設改装の必要性

##### <ケアの基本的考え方>

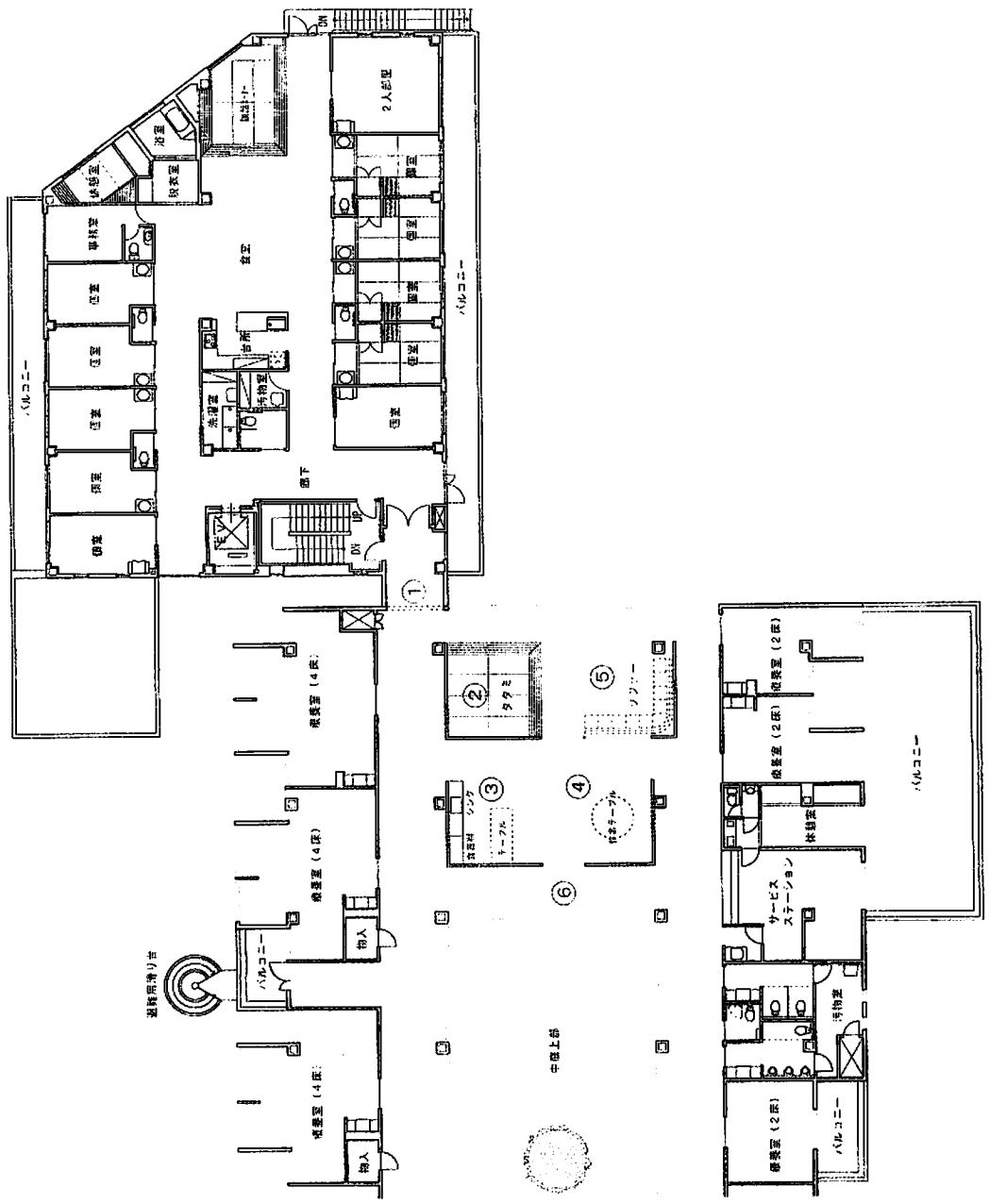
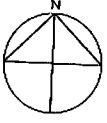
1・2階40人のユニットケアを昔の大家族として捉え、個々人の要望を大切にしながら共同の生活を営む。隣接する12床のユニットケアの影響を考慮し、既存施設利用者個々の要求に対応できるハードを整備する。

##### <改装のコンセプト>

1. 落ちつける居場所 ②③④⑤
  - 心身の状態による居場所 —— 家庭的設え
  - 身体の状態による居場所の設え
  - 人間関係による居場所
  
2. 生活リハビリの場 ②③④⑤
  - 個が選択できる場
  - リハビリの意欲向上の環境
  
3. 異なる生き方が共生できる空間 ②③④⑤⑥⑧⑨
  - 活動を広げる交流の場
  - 利用者・家族の望みに応える楽しい空間
  
4. 残存機能の維持向上  
機能回復訓練室と回廊の活用 ③④⑥⑦⑧
  - 人が生まれながらに持っている競争心や長寿の欲求に対応する空間 —— 集団・個々のリハビリ
  - 歩行という基本的必要能力確保の為の回廊活用 —— 老化・虚弱化予防
  - ユニットケア（12床）利用者の欲求（より広い空間、より長い距離）に応えられるスペースの確保
  
5. 生活空間の区分け
  - 食堂と浴場スペースの区切りをすることで居住性（落ち着ける空間）を高める
  - 浴室への通路を確保することで、1、2階利用者の混同を防ぐ

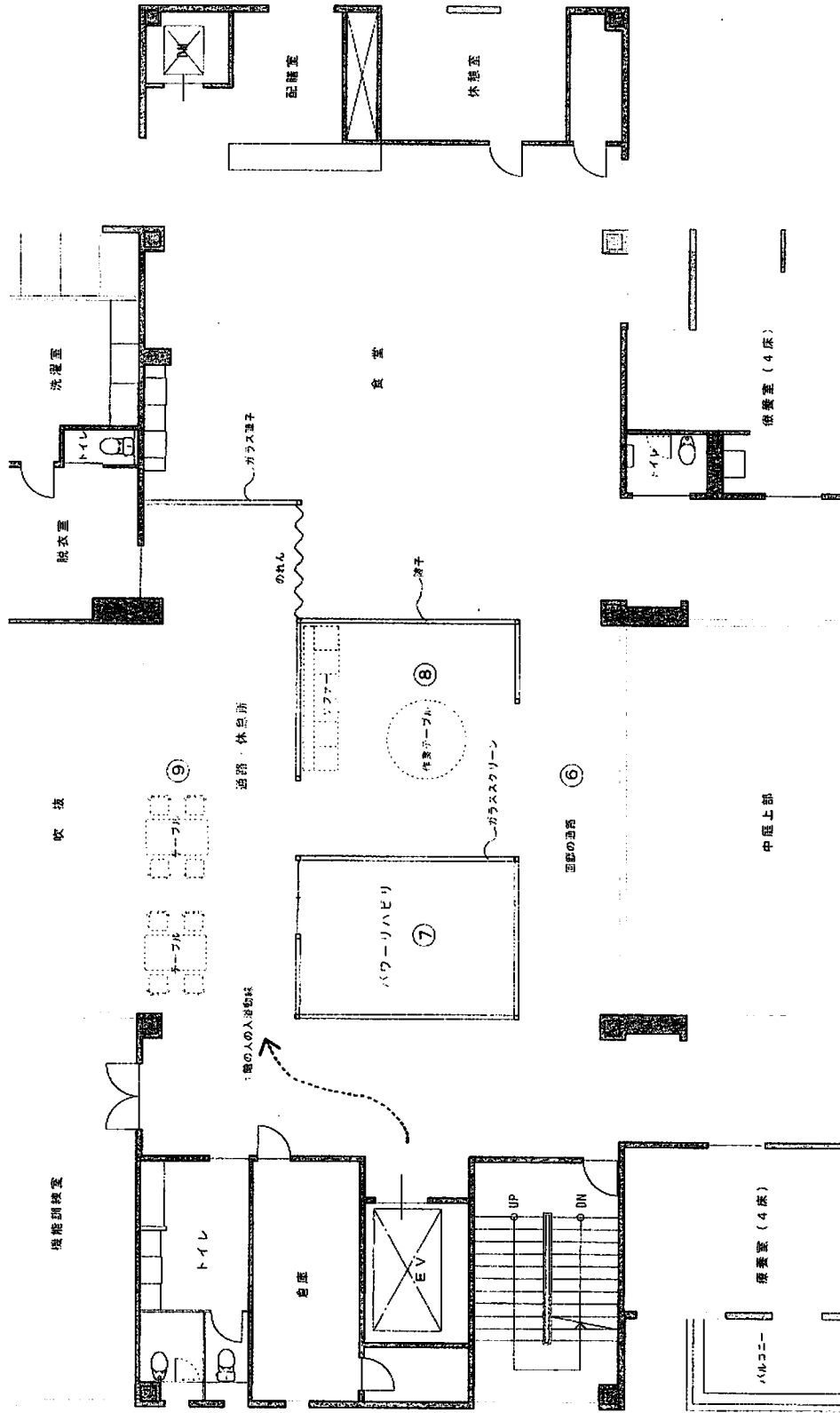


MEMO	Rikitake Architect's office		介護老人保健施設「クレイン」		NO	
	(株) アール・エー設計事務所		2 階平面図		SCALE 1/300	
DATE	DATE	TITLE				
DRAW	DRAW	CHECK				



MEMO	DATE	TITLE	NO
	DRAW	介護老人保健施設「クレイン」	
	CHECK	2階平面図 (改装 A)	SCALE
			1/200

Rikitake Architect's office  
 (株) アール・イー設計事務所



MEMO

Rikitake Architect's office  
 (株)アール・エー設計事務所

DATE

DRW

TITLE

介護老人保健施設「クレイン」  
 2階平面図 (改装 B)

NO

SCALE

1/100